

動作環境				
	OS	CPU	メモリ	ブラウザ
ILPサーバー (オンプレミス版)	<ul style="list-style-type: none"> Microsoft Windows Server 2016 Standard / Datacenter Edition Microsoft Windows Server 2019 Standard / Datacenter Edition Microsoft Windows Server 2022 Standard / Datacenter Edition ※日本語 OS のみ対応	Intel Xeon 2.1GHz(4Core)以上 ※Intel Xeon 2.5GHz(6Core) 以上推奨	4GB 以上 ※8GB 以上推奨	
クライアント導入PC ^{*1} (InterSafe Client導入PC)	<ul style="list-style-type: none"> Microsoft Windows 10 Pro / Enterprise LTSC1809 / LTSC21H2 / SAC21H1 / SAC21H2 / SAC22H2 Microsoft Windows 11 Pro / Enterprise SAC21H2 / SAC22H2 ※日本語 / 英語 / 中国語(簡体) [多言語は Client OS のみ]	Intel Core i3 2.0GHz 以上	2GB 以上 ※4GB 以上推奨	Microsoft Edge / Google Chrome
FileProtection for SBC	<ul style="list-style-type: none"> Microsoft Windows Server 2016 Standard / Datacenter Edition(LTSC) Microsoft Windows Server 2019 Standard / Datacenter Edition(LTSC) Microsoft Windows Server 2022 Standard / Datacenter Edition(LTSC) ※日本語 OS のみ対応	Intel Xeon 2.1GHz(4Core)以上 ※Intel Xeon 2.5GHz(6Core) 以上推奨	32GB 以上 ※64GB 以上推奨	
クライアント未導入PC	<ul style="list-style-type: none"> Microsoft Windows 10 Home / Pro / Enterprise Microsoft Windows 11 Home / Pro / Enterprise ※32 / 64bit 対応 ※日本語 / 英語 / 中国語(簡体) OS 対応	Intel Core i3 2.0GHz以上	2GB 以上 ※4GB 以上推奨	
VMware		Citrix		
仮想環境 (VDI)	VMware Horizon View ^{*2}	Citrix Virtual Desktops ^{*2}		
Windows				
仮想環境 (SBC)	Remote Desktop Services ^{*3}			

※1: InterSafe Client(常駐型プログラム)をインストールしたPC。
 ※2: 対応バージョンおよび制限事項等は別途お問い合わせください。
 ※3: InterSafe FileProtection for SBCが対象です。
 ※自己復号型暗号ファイルの動作環境については、クライアント導入PCの動作環境に準じます。
 ※Windows10およびWindows11サービシングモデルの対応状況は、弊社FAQサイトをご確認ください。 <https://alsifaq.dga.jp/>
 ※InterSafe SecureSwitch / DeviceControlは、すべてのデバイスに対する制御を保証するものではありません。
 ※InterSafe SecureDevice UltimateをゲストPCでご利用になる場合は、事前にドライバソフトをAdmin権限でインストールする必要があります。
 ※InterSafe ILP のご利用には、Microsoft .NET Framework 4.8およびMicrosoft Visual C++ 2015-2019 Redistributable Package 14.32.30135 以降が必要です。
 ※Windows 10 / 11のストアアプリ、タブレットモードには対応していません。
 ※仮想環境(SBC)は、MicrosoftのRemote Desktop Servicesが稼働する環境で利用します。
 ※利用される際は目安としてメーカーリリース後3年以内のハードウェア(HW)をご利用ください。旧式のHWをご利用される際は十分なパフォーマンスが得られない可能性がありますので、予めご注意ください。
 ※InterSafe FileTransporterについては、上記OS以外でも転送・承認等のブラウザで操作する機能はご利用になれます。

注意: 本製品は暗号化機能を実装しているため、中国等、日本国外でご利用になる場合は、利用申請・許可が必要な場合があります。ご利用にあたっては、予め各国の法規制をご確認ください。

※最新の動作環境 / 動作確認済みアプリケーション / 動作確認済みUSBメモリに関しては弊社ホームページをご参照ください。記載されている会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。記載された内容は2023年2月現在のものです。

製品に関するお問い合わせは各営業所までお願いいたします。

アルプス システム インテグレーション株式会社

本 社 〒145-0067 東京都大田区雪谷大塚町1-7
 TEL: 03-5499-8045 FAX: 03-5499-0357
 東京営業所・古川営業所・仙台営業所・いわき営業所
 名古屋営業所・大阪営業所・福岡営業所・白金台オフィス



お問い合わせ、ご用命は下記へお申し付けください

<https://www.alsi.co.jp/> E-mail: ssg@alsi.co.jp

※ALSI(アルシー)はアルプス システム インテグレーション株式会社のコミュニケーションブランドです

23.02.ILP.2500



もっと豊かな情報未来へ
 アルシー・ソリューション

情報漏洩対策シリーズ

InterSafe ILP ver.8.2

「インターセーフ アイエルピー」

- ファイル自動暗号化 ————— InterSafe FileProtection
- デバイス制御 ————— InterSafe DeviceControl
- ファイル転送 ————— InterSafe FileTransporter
- 簡易インターネット分離 ————— InterSafe SecureSwitch
- セキュリティUSBメモリ作成 — InterSafe SecureDevice
- 申請・承認ワークフロー ————— InterSafe WorkFlow
- ファイル無害化 ————— InterSafe FileSanitizer
Powered by OPSWAT
- 個人情報検出 ————— InterSafe PIS

- 自治体セキュリティ強化対応
- 教育情報セキュリティガイドライン対応
- ネットワーク分離対応
- テレワーク対応
- クラウド対応
- 仮想化 (VDI/SBC) 対応

<https://www.alsi.co.jp/>

情報漏洩の脅威が拡大するなか、 個人情報管理の強化は すべての組織において 最重要課題となっています。

ランサムウェア攻撃による被害の増加、高まる個人情報管理の必要性

ランサムウェアは、民間企業だけでなく、医療や金融、自治体など、あらゆる業界が標的となり被害が増加。働く場所や利用端末が多様化し感染リスクが高まっている。今、情報を保護することは重要課題です。しかし一方、個人データのセキュリティ問題は、2022年4月より施行された「改正個人情報保護法」や2018年5月に施行された「EU一般データ保護規則（GDPR）」など、国内外で厳しい規制と罰則が策定。対策の必要性はますます高まっています。

■情報セキュリティ10大脅威 2023

順位	「組織」向け脅威	昨年順位
1	ランサムウェアによる被害	1
2	サプライチェーンの弱点を悪用した攻撃	3
3	標的型攻撃による機密情報の窃取	2
4	内部不正による情報漏えい	5
5	テレワーク等のニューノーマルな働き方を狙った攻撃	4
6	修正プログラムの公開前を狙う攻撃（ゼロデイ攻撃）	7
7	ビジネスメール詐欺による金銭被害	8
8	脆弱性対策情報の公開に伴う悪用増加	6
9	不注意による情報漏えい等の被害	10
10	犯罪のビジネス化（アンダーグラウンドサービス）	NEW!

出典：独立行政法人情報処理推進機構「情報セキュリティ10大脅威 2023」

■改正個人情報保護法

個人情報を取り扱うすべての企業が対象。特に、漏洩時報告義務化や罰則規定が強化されたため、大きな損害や企業の信頼低下を生まないためにも適切な対応が求められる。

本人の権利保護強化	<ul style="list-style-type: none"> 短期保有データの保有個人データ化 保有個人データの開示請求のデジタル化 利用停止・消去請求権、三者への提供禁止請求権の要件緩和 個人データの授受についての第三者提供記録の開示請求権
事業者の責務追加	<ul style="list-style-type: none"> 漏洩時の報告義務（個人情報保護委員会・本人） 不適正な利用の禁止
企業の特定分野を対象とする認定団体制度の新設	<ul style="list-style-type: none"> 「事業の種類その他業務の範囲」に限定した個人情報との取扱いを対象とする団体を認定
データの利活用を促進	<ul style="list-style-type: none"> 「仮名加工情報」について事業者の義務を緩和 提供先で個人データとなることが想定される場合の確認義務を新設
法令違反に対するペナルティ強化	<ul style="list-style-type: none"> 措置命令・報告義務違反の罰則について法定刑を引き上げ → 行為者に対して1年以下の懲役又は100万円以下の罰金 法人に対する罰金刑を引き上げ → 法人に対して1億円以下の罰金
外国の事業者に対する罰則追加	<ul style="list-style-type: none"> 日本国内にある者に係る個人情報などを取り扱う外国の事業者も、罰則によって担保された報告徴収・命令および立入検査などの対象

■EU一般データ保護規則（GDPR）

日本企業がGDPRの適用対象となるケース

- ① EEAに子会社、支店、営業所がある企業
- ② 日本からEEAに商品、サービスを提供している企業
- ③ EEAから個人データの処理について委託を受けている企業

制裁金の上限額	業務違反の一例
企業の全世界年間売上高の2%または1,000万ユーロのいずれか高い方【第83条(4)】	リスクに対する適切なセキュリティレベルを保證する適切な技術的・組織的な対策を実施しなかった場合【第32条】
企業の全世界年間売上高の4%または2,000万ユーロのいずれか高い方【第83条(5)】	適法に個人データを処理しなかった場合【第6条】

※EU:EU加盟国及び欧州経済領域（EEA）の一部であるアイスランド、ノルウェー、リヒテンシュタイン ※GDPR:General Data Protection Regulation

約900,000ライセンスの導入実績

Cloud マークの製品は、クラウド版もご用意しています

InterSafe ILPは、「情報の持出し・持込み制御」と「持出し後の安全の担保」ができる、多層的な情報漏洩対策のためのソリューション。以下の機能を、単体でも組み合わせでも、自社のセキュリティポリシーにあわせて自由に導入できます。

基本機能（選択）

InterSafe FileProtection

[ファイル自動暗号化]
ストレージ等、多様な環境に対応。
ドライブレベルでの高い運用性。SBC仮想環境に対応。

InterSafe DeviceControl

[デバイス制御]
多様なデバイスのきめ細かな利用制御。
ワークフローやセキュアデバイスと連携。

InterSafe FileTransporter

[ファイル転送]
異なるネットワーク間での
ファイル転送。
ファイル転送時の申請／
承認・暗号化・無害化。

InterSafe SecureSwitch

[簡易インターネット分離]
簡易的なネットワーク
分離環境を実現。
デスクトップ毎の
ネットワーク接続切替。

InterSafe SecureDevice Ultimate

[セキュリティUSBメモリ作成]
汎用USBメモリをセキュアな
USBメモリに変換。
ソフトウェアによる
柔軟な制御。

拡張機能

InterSafe WorkFlow

[申請・承認ワークフロー]
書出し／持込み／ファイル暗号解除・
テンプレート変更。
申請・承認履歴の保存と
原本管理ファイル書出し
時の自動暗号化。

InterSafe FileSanitizer

[ファイル無害化]
持込みファイルを
CDR（コンテンツ非武装化／
再構築）技術で無害化。
30種類以上のアンチ
マルウェアエンジンを搭載。

InterSafe PIS

[個人情報検出]
サーバーやクライアントPC内の
個人情報・マイナンバー情報を
検出し暗号化。
暗号化ファイル内の情報
も検出可能。

共通機能

管理サーバー機能

共通コンソールでの一元管理
リアルタイムでのポリシー適用

クライアント機能

共通エージェントで各種機能提供
オフラインでの制御を実現
自己復号型暗号、パスワードzip作成

ログ管理機能

操作ログのリアルタイム収集
外部利用USBメモリの操作ログ
不正操作のアラート通知

※InterSafe ILPは上記製品の総称です。※InterSafe SecureSwitchにはInterSafe DeviceControlの機能が含まれています。

情報漏洩対策に合わせ、単一製品での使用はもちろん、製品を組み合わせ使用することができます。

製品の追加はライセンスの入力のみで完了。クライアントソフトを追加インストールする必要はありません。

■例えばこんなデータ管理 1

デバイスへの書出しを制御。書出す場合はWebで申請、上長が承認した場合のみ書出し可能に。

■例えばこんなデータ管理 2

デバイスへの書出しを制御。書出す際は、ファイルを自動暗号化。書出したファイルはサーバーにアーカイブ。

■例えばこんなデータ管理 3

デバイスへの書出しを制御。書出す場合はセキュリティが確保されたUSBメモリのみ可能に。

■例えばこんなデータ管理 4

ファイルを暗号化して情報を保護。外部に送信する場合はWebで申請、上長が承認した場合のみ暗号解除、セキュアファイルに変換。

InterSafe FileProtection CLOUD

「インターセーフ ファイルプロテクション」

ファイルを保存した時点で自動的に暗号化&アクセス制御。
不正に持出されても解読できないため、情報が漏洩しません。

ユーザーへ負担をかけない2つの自動暗号化方式

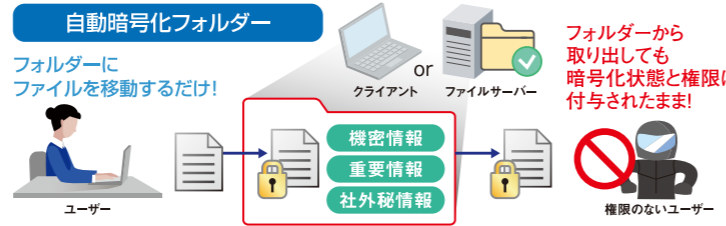
■ファイル保存時に自動暗号化

あらかじめ設定したアプリケーションでは、暗号化されていないファイルを開いたり、保存した際に自動的に暗号化します。特別な操作が不要で、ファイル名・ファイル形式もそのまま。ユーザー、管理者ともに従来と操作が一切変わりません。自動暗号化の設定をしていない場合でも右クリックで簡単に暗号化可能です。



■フォルダーに移動で自動暗号化

自動暗号化フォルダーは、ファイルを特定のフォルダーに移動するだけで自動で暗号化することができます。



※共有フォルダーのみオプション

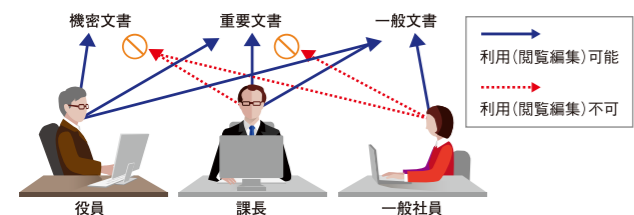
動作確認済み暗号化対象アプリケーション	Microsoft Word / Excel / PowerPoint (2016, 2019, 2021) Microsoft メモ帳 / ワードパッド / ペイント Adobe Acrobat Reader DC 一太郎Pro4 AutoCAD / Windows Media Player (2023年2月現在)
---------------------	--

Point 暗号化ファイルは外部で閲覧不可能! 万が一、流出してしまったとしても、高度な暗号化が施されているので、下記の対象になる影響を受ける本人への連絡の省略化 事実関係等の公開の省略化

※「個人データの漏えい等の事案が発生した場合等の対応について」(平成29年個人情報保護委員会告示第1号)

アクセス権限設定

InterSafe FileProtectionでは独自にユーザー属性を利用者に設定し、ユーザー属性とアクセス権限を紐づけてファイルを暗号化します。



ユーザー属性とアクセス権を紐づけた閲覧権限(テンプレート)が、暗号化の際にファイル毎に適用されます。

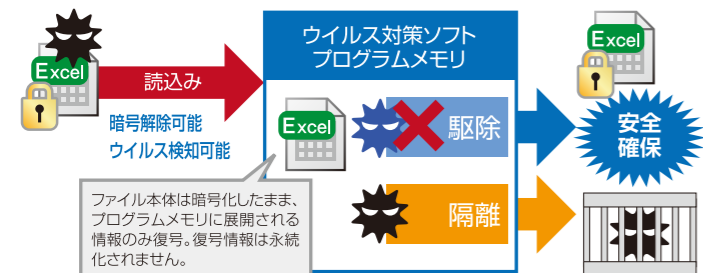
	機密文書	重要文書	一般文書
ユーザー属性	閲覧	編集	暗号解除
役員	許可	許可	許可
管理職	許可	許可	不可
社員	不可	不可	不可

※クライアント端末にて有効期限の設定も可能 テンプレート例

暗号化したままウイルス検知・全文検索

業界初、暗号化されたファイルは復号することなくウイルスの検閲・駆除、隔離を行うことができます。また、Windows Searchによるコンテンツ検索も可能です。

ウイルス検知イメージ



コンテンツ検索イメージ



【ウイルス検知動作確認済みアプリ】
 ※Trend Micro Apex One Ver 14.0.11136 ※Symantec Endpoint Protection Ver 14.3.9205.6000 ※ESET PROTECT Entry Ver 9.1.2060.1
 ※McAfee MVISION (McAfeeSmart) Ver 5.7.8.262 ※Windows Defender Ver 4.18.2211.5
 ※お客様環境における全ての正常動作を保証するものではありません。またサーバーOSは動作対象外となります。

自動バックアップによるランサムウェア対策

ファイルを保存(暗号化)した時点で自動的にセキュリティフォルダーにバックアップファイルを保存します。セキュリティフォルダーに保存されたファイルは、専用ツールを利用しないとアクセスできないため、万が一ランサムウェアに感染した場合でも、バックアップファイルを安全に保護し、確実に感染前の状態に復元することができます。



次世代型暗号化エンジンで高速処理化

フィルターモジュール内でオリジナル/暗号ファイルデータを分離して管理・処理することで、多様な環境に対応。SBC環境や大規模ストレージ、様々な資産管理/総合ログ管理製品との高い親和性により、幅広い環境でのセキュリティ強化を実現します。

大規模ストレージ/HCI

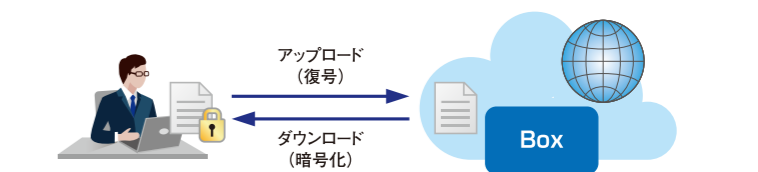


資産管理/総合ログ管理



クラウドストレージからダウンロードしたファイルを自動暗号化

ファイル共有サービスのBoxと連携し、ファイルをダウンロード時に自動暗号化することで、社内環境に持込んだタイミングで安全性を確保することが可能です。ダウンロード/アップロードでの暗号化/復号は設定変更可能で、故意の漏洩、不正アクセス、共有リンク通知の誤送信にも対応することができます。





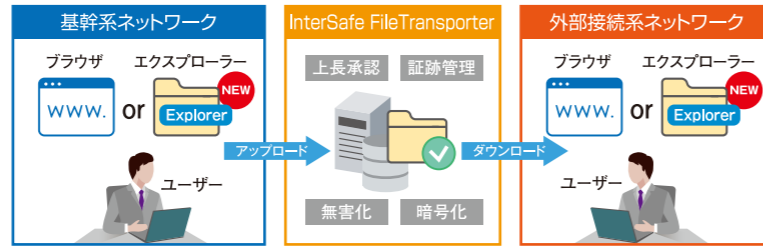
InterSafe FileTransporter

「インターセーフファイルトランスポーター」

異なるネットワーク間でファイル授受。
上長承認や暗号化で安全性を強固にします。

ファイル転送

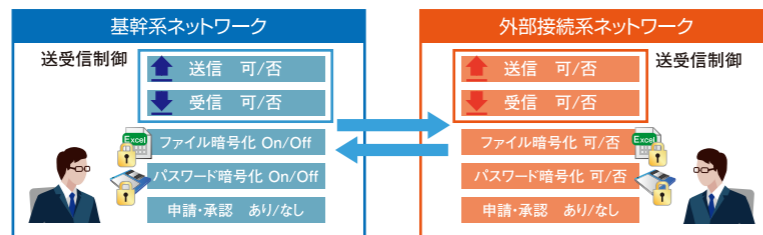
ネットワーク間でのファイル転送をブラウザからエージェントレスに実施。上長承認や暗号化機能を搭載し、ファイル無害化製品やデバイス制御製品と組み合わせることで利便性と安全性をさらに強化します。
また、「自動無害化フォルダー」機能により、指定のフォルダーにファイルを保管するだけで、ファイルを無害化し転送できます。ユーザーはアップロードやダウンロード、申請承認の操作を省け、個人からグループへの転送も容易にできます。



※基幹系ネットワーク⇄外部接続系ネットワークの双方向でご利用可能です。

ユーザー毎・ネットワーク別の柔軟なポリシー

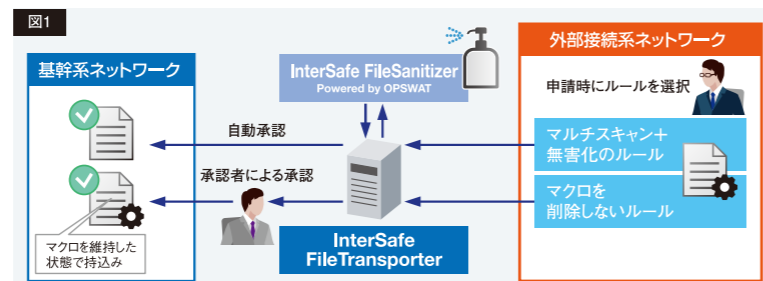
グループ・ユーザー毎にデータ受渡しの方向性指定、暗号化、申請・承認等、柔軟なポリシー制御が可能です。またそれぞれのネットワークで異なる設定を付与することもできます。



他製品と組み合わせ

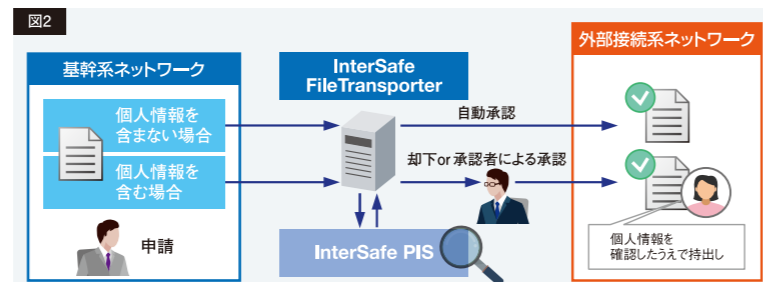
■ファイル持込み時のウイルス感染を防止

InterSafe FileSanitizer Powered by OPSWATと連携することで、外部からのファイル持込み時に自動で無害化・マルチスキャンを実施。申請時にルール選択可能で、通常のルールでは承認まで自動化。「マクロを削除しないルール」では、マクロを残したまま無害化・マルチスキャンを実施し、承認者チェックを行います。(図1)



■ファイル持出し時の個人情報漏洩を防止

InterSafe PISと連携することで、内部からのファイル持出し時に対象ファイル内の個人情報やマイナンバー情報の有無を自動チェック。ファイルに個人情報やマイナンバー情報が含まれていない場合は自動で承認され、含まれていた場合には申請を自動で却下、または、承認者によるチェックを行います。(図2)



その他にも、InterSafe DeviceControl・InterSafe WorkFlowと併用することで、ユーザーはファイル転送と外部デバイスによるファイル授受の双方を利用可能となり、申請／承認履歴を1つの管理画面から確認できます。

InterSafe FileProtectionと連携することで、基幹系ネットワークではファイルを暗号化した状態で保持し、外部接続系ネットワークへ転送する場合に自動で復号可能です。万が一、別の方法で外部接続系ネットワークへ持出しされても、閲覧することができません。(図3)



InterSafe FileSanitizer Powered by OPSWAT

「インターセーフファイルサニタイザー パワード バイ オプスワット」

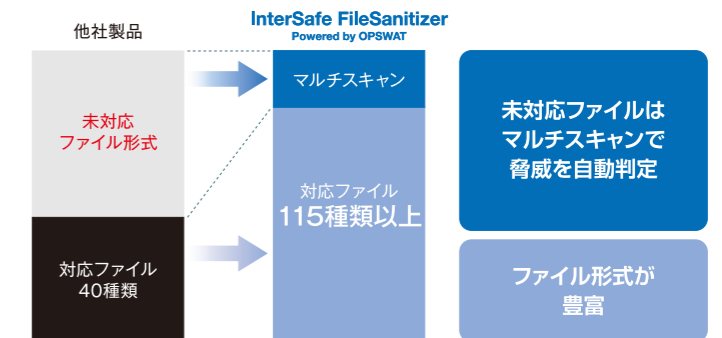
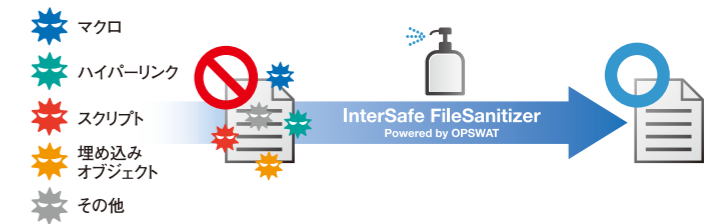
多様なファイル形式に対応したファイル無害化と、複数のアンチマルウェアエンジンを搭載。
外部ファイル経由の脅威を防御します。

複数の防御機能を搭載

■ファイル無害化 (Deep CDR)

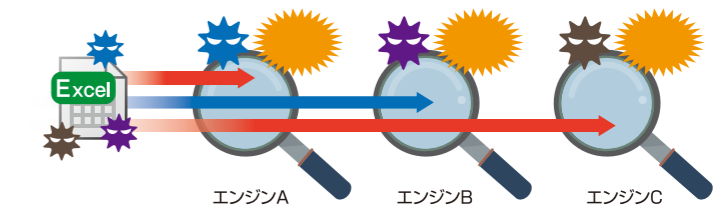
ファイル内の脅威となり得るマクロやリンクを削除・無効化したうえで、安全なコンテンツを再構築。ユーザービリティを損なうことなくファイルは無害化できます。他のファイル無害化製品は対応ファイルが40種類程度とされていますが、本製品は、Officeファイルだけでなく、画像ファイルなど115種類以上*のファイル形式に対応可能です。また未対応ファイルについては下記マルチスキャン機能を使って複数のアンチウイルスエンジンでチェックをかけることで、脅威の有無を自動判定します。

※2022年4月現在

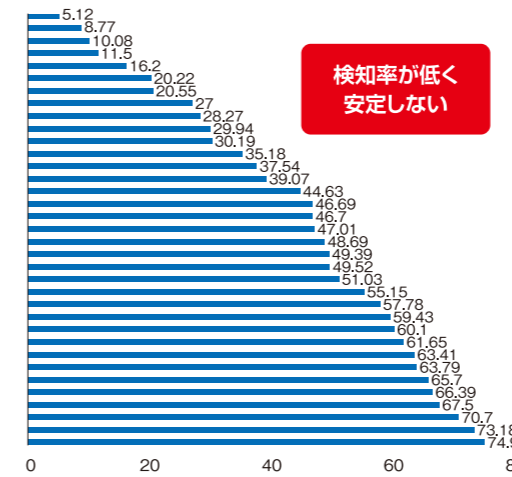


■マルチスキャン

単一エンジンでのスキャンでは、高くても約75%ほどしか脅威を検知することができません。しかし、本製品なら30種類を超える実績あるアンチマルウェアエンジンのシグネチャ、ヒューリスティック、機械学習によって、マルウェアの99%*以上を検知。既知・未知の外部脅威から徹底的に防御します。利用するエンジンは柔軟なパッケージオプションから選択いただけます。

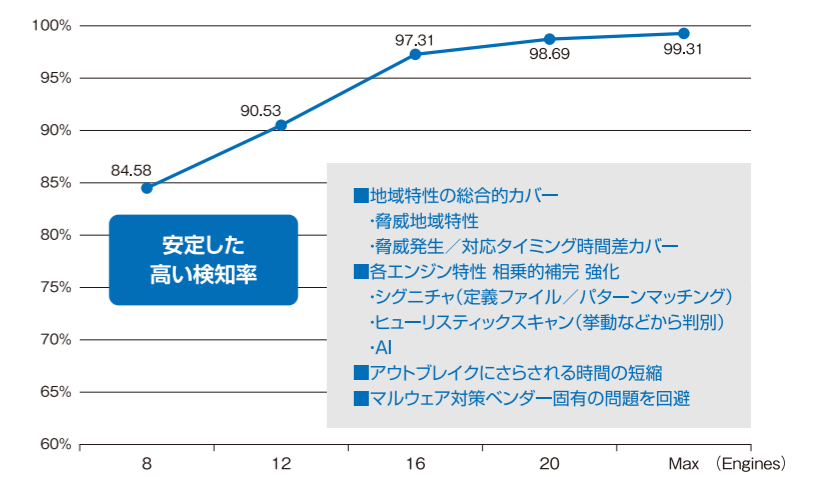


■単一エンジン検知率



※任意の80個の脅威をスキャンを行い、各エンジンの単一検知結果を表しています。※OPSWAT社調べ。

■Top 10,000脅威 検知率



- 安定した高い検知率
- 地域特性の総合的カバー
 - ・脅威地域特性
 - ・脅威発生/対応タイミング時間差カバー
- 各エンジン特性 相乗的補完強化
 - ・シグニチャ(定義ファイル/パターンマッチング)
 - ・ヒューリスティックスキャン(挙動などから判別)
 - ・AI
- アウトブレイクにさらされる時間の短縮
- マルウェア対策ベンダー固有の問題を回避



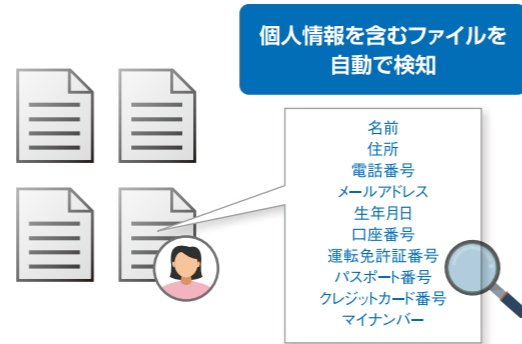
InterSafe PIS (Personal Information Search)

「インターセーフピーアイエス」

サーバーやクライアントPC内から個人情報・マイナンバー情報を含むファイルを検出。機密情報を漏れなく保護します。

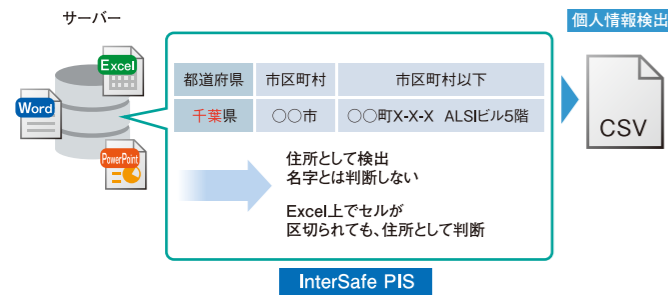
個人情報を含むファイルを検出

InterSafe PISは個人情報や機密情報をファイルの中身までくまなくチェックします。住所や名前だけでなくマイナンバー情報も自動で検出。InterSafe FileProtectionやInterSafe FileTransporterなどと連携することで、外部への流出を未然に防ぎ、内部の情報を常に暗号化で保護することができます。



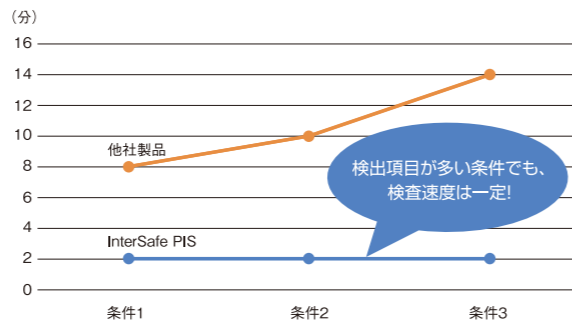
高い検査精度

24種類のデータベースを元に個人情報を検出。特に名字と住所の検出精度が高く、例えば、「千葉県」のように「千葉」という名字が含まれる住所でも、住所と名字は区別して判断します。また、Excelで住所が県、市区町村などで区切られている場合でも、住所として正確に検出できます。



圧倒的な速さで個人情報を検出

ファイルサーバー内の個人情報を含むファイルの検出までをスピーディーに行うことができます。また、検出項目を増やしても検査速度が変わることはありません。



ビジネスで多用されるファイル形式に対応

OfficeファイルやPDFなどビジネスシーンで欠かせないファイル形式に対応しています。

■ 検査可能なファイル形式

Windows 版 Microsoft Word 97 / 98 / 2000 / 2002(XP) / 2003 / 2007 / 2010 / 2013 / 2016 / 2019 / 2021
Windows 版 Microsoft Excel 97 / 2000 / 2002(XP) / 2003 / 2007 / 2010 / 2013 / 2016 / 2019 / 2021
Windows 版 Microsoft PowerPoint 97 / 2000 / 2002(XP) / 2003 / 2007 / 2010 / 2013 / 2016 / 2019 / 2021
Adobe Systems Acrobat (PDF) 4.0 / 5.0 / 6.0 / 7.0 / 8.0 / 9.0 / X / XI / DC / 2017
ODF 1.1 / 1.2 (ワープロ、表計算、プレゼンテーション) ※
一太郎 V7-V13 / 2004-2021 (JFWファイル、JTDファイル)
圧縮ファイル (zip, lha, tar, tgz, 7z) 通常10階層まで展開して検査
eml (Outlook、Thunderbirdのメールファイル) ※

※InterSafe FileProtectionサポート外 (連携対象外) アプリケーションです。InterSafe FileProtectionのサポート対象バージョンは別途ご確認ください。



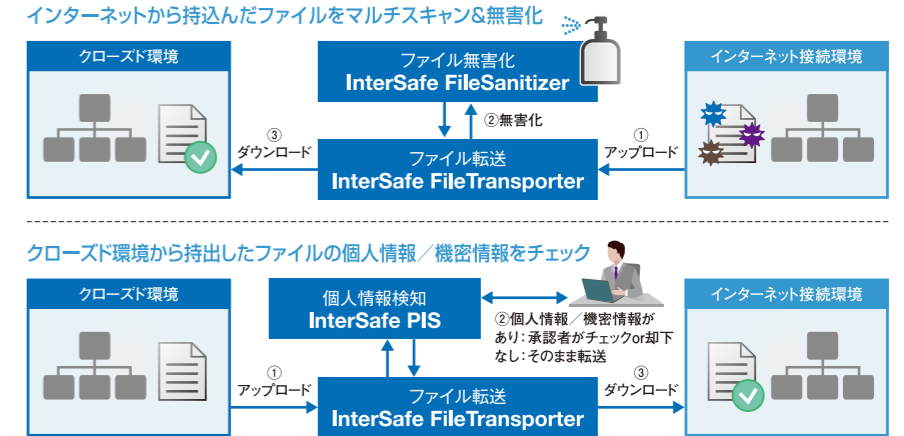
おすすめパッケージ

自社のセキュリティポリシーにあわせて様々な組み合わせが可能なInterSafe ILP。目的別に、3つのおすすめパッケージをご用意しています。

ファイル転送を利用した受渡しなら...

ファイル無害化転送パック

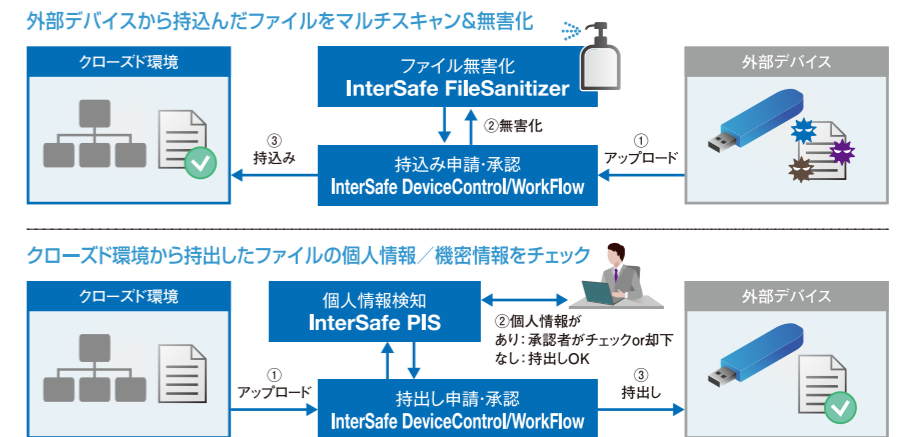
ネットワーク間のファイル転送時に、ファイル無害化や個人情報検出と連携。クローズド環境へ持込むファイルに脅威が含まれていても、無害化することで安全に持込むことができます。反対にインターネット接続環境に持出すファイルに個人情報が含まれていても、個人情報検出後に承認者のチェック、または申請を却下することで情報漏洩を未然に防ぎます。



外部デバイスを利用した持出し/持込みなら...

デバイス無害化管理パック

外部デバイスを利用したファイル書出し申請の際に、ファイル無害化や個人情報検出と連携。外部からの資料をUSBメモリを利用して持込む際に、無害化することで安全に持込むことができます。反対に内部の資料を外部へ持出す際、個人情報検出後に承認者のチェック、または申請を却下することで情報漏洩を未然に防ぎます。

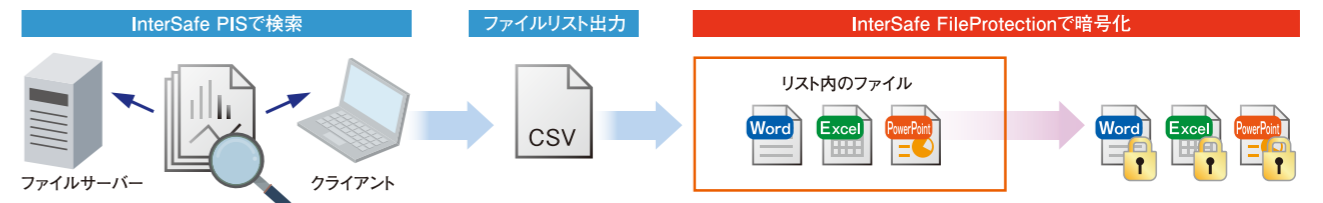


個人情報やマイナンバー情報を強固に守りたいなら...

個人情報暗号化パック

ファイルサーバーやクライアントPCの中に保存されたファイルに、個人情報が含まれていないか一つ一つ確認するのは現実的ではありません。個人情報検出オプションとファイル暗号化が連携することで、簡単かつ強固なセキュリティを実現します。検索対象エリアのファイルの中身までチェック。個人情報やマイナンバーが含まれるファイルを検出し、一括で暗号化することができます。

本オプションツールによって、ファイル検出→暗号化完了までシームレスに実行されます。



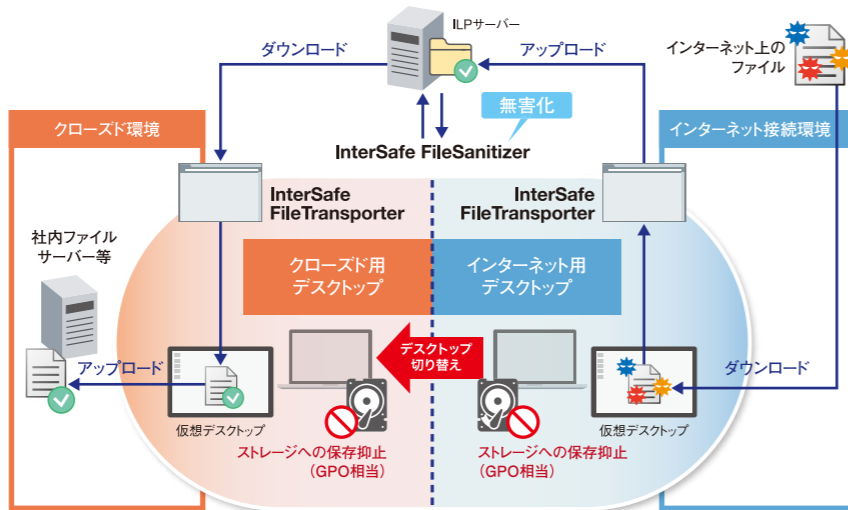
InterSafe SecureSwitch CLOUD

「インターセーフセキュアスイッチ」

デスクトップをワンタッチで切替。
簡易にネットワークを分離します。

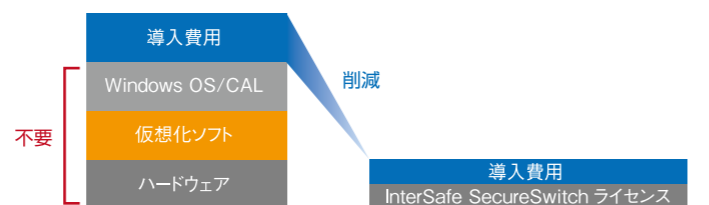
デスクトップ切替でネットワークを分離

インターネット用デスクトップとクローズド用デスクトップを作成し、ワンタッチでネットワークを切り替えられます。ローカルドライブへの保存抑止やUSBメモリ制御、ネットワーク制御の機能を標準搭載しているため、1台のPCでネットワーク分離を簡易に実現します。また、デスクトップ切り替え時に任意のスク립トを実行できるため、プロキシIPアドレス設定の変更や、ファイルサーバーのマウントなどのネットワーク関連の設定も実施できます。InterSafe FileTransporterと連携し、一時作業領域を利用することで、ローカルドライブへの保存抑止をしても、インターネットからのダウンロードファイルをクローズド環境へ転送可能です。ファイル無害化やマルチスキャン、個人情報チェックとも連携することで、安全なファイル受渡し環境を実現します。



低コストでネットワークセキュリティを強化

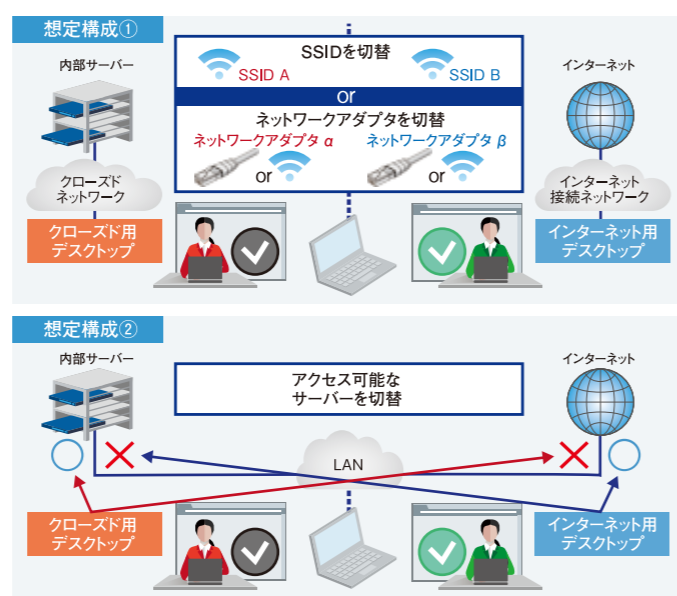
VDIや物理分離によるネットワーク分離は導入費用に加えて、Windows OS/CALや仮想化ソフト、ハードウェアなどが必要ですが、InterSafe SecureSwitchは導入費用とライセンス費用のみで導入いただくことが可能です。



ネットワーク環境に応じた構成

■ネットワークが物理的に分かれている場合の構成

ネットワークが物理的に分かれている場合、SSIDまたはネットワークアダプタを切り替えることで、接続先ネットワークを制御します。



■ネットワークが物理的につながっている場合の構成

ネットワークが物理的につながっている場合、アクセス可能なサーバーを切り替えることで、アクセス先を制御します。

※InterSafe SecureSwitchにはInterSafe DeviceControlの機能が含まれています。

InterSafe SecureDevice Ultimate CLOUD

「インターセーフセキュアデバイスアルティメイト」

現在使用中のUSBメモリをセキュリティUSBメモリに変換。
小さなコストで大きなセキュリティを実現します。

多彩なセキュリティ機能

汎用USBメモリをセキュリティUSBメモリに変換できるだけでなく、変換時に、セキュリティモードを選択できます。セキュリティモードは5種類(オリジナルの設定も可能)。使用目的やポリシーに応じて、最適なセキュリティUSBメモリが作成できます。ハードウェアタイプのセキュリティUSBメモリと違い、普通のUSBメモリに戻したり、ライセンスを他のUSBメモリに再利用したりすることも可能です。



パスワードモード 盗難、紛失時にもパスワードによる認証でデータを保護します。 パスワード認証 ゲスト PC	社外利用禁止モード InterSafe Clientが未導入の社外のPCでは、暗号化USBメモリを利用させません。 エージェント未導入PC 利用不可 利用可 ゲスト PC
ウイルス対策モード 自宅等に持ち帰った場合にも、自宅PCへデータのコピー、移動ができないため情報漏洩を防ぐことが可能です。さらに、PCからUSBメモリへのデータコピー、移動も不可のため、ウイルスの侵入を防止します。 USBメモリへコピー不可 ゲスト PC	情報漏洩対策モード 自宅等に持ち帰った場合にも、自宅PCへデータのコピー、移動ができないため情報漏洩を防ぐことが可能です。 USBメモリ内で編集・保存は可能 ゲスト PC
読み取り専用モード USBメモリへの書き込み不可のためウイルスの侵入を防止します。また、USBメモリ内のファイル編集も不可のため、原本が変更されることはありません。 USBメモリ内で編集・保存は可能 ゲスト PC	

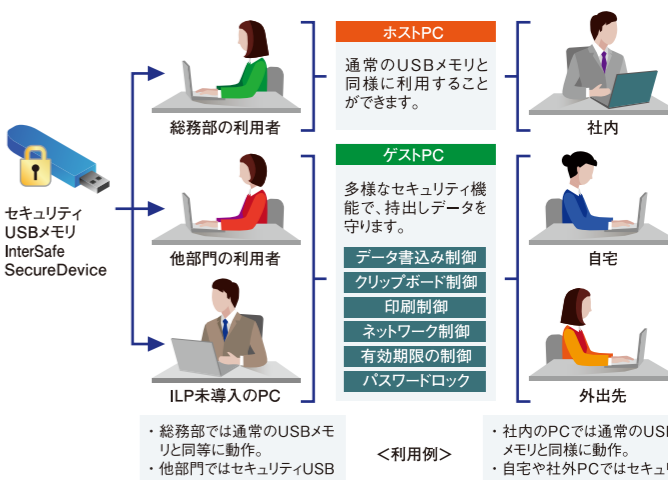
ホストPCとゲストPC

セキュリティUSBメモリに変換時、USBメモリごとに使用するユーザーやグループを登録できます。登録したユーザーやグループが使用する場合には「ホストPC」として動作。通常のUSBメモリと同様に利用できます。登録ユーザー/グループ以外の人を使用する場合は「ゲストPC」として動作、セキュリティUSBメモリとして、設定されたセキュリティモードでの使用に制限されます*。

また、クライアントソフト未導入PCでは、セキュリティUSBメモリの利用自体を禁止することも可能です。

*ユーザー権限では動作しません。事前にドライバーソフトをAdmin権限でインストールする必要があります。暗号化されたUSBメモリには、アプリケーションを問わず保存できますが、動作確認済みのアプリケーションは、下記の通りです。

動作確認済みアプリケーション	Microsoft Word / Excel / PowerPoint (2016, 2019, 2021) Microsoftメモ帳 / ペイント Adobe Acrobat Reader DC 一太郎Pro4 (2023年2月現在)
----------------	--



持出し対策の強化

InterSafe DeviceControl, InterSafe WorkFlowと組み合わせると、さらなる持出し対策強化が可能です。

通常の外部デバイスへの書出しを禁止し、InterSafe SecureDevice Ultimateで暗号化したUSBメモリであれば、書出しが可能です。その他のデバイスの場合、承認されたデバイス、ファイルのみ書出すことができます。

